

事業 番号	事業名	事業概要		確定額 (千円)	事業区分
		事業実施により実現できた具体的効果・成果			
	事業者名	実施地等			重点等
		実施期間			
URL					
内42	ギリシャ小泉八雲没後110年記念事業国際シンポジウムオープン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン「西洋から東洋へ」	<p>ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)が持つ「オープン・マインド(開かれた精神)」を多角的な視野で分析・解釈を試みる国際シンポジウムを開催した。</p> <p>このシンポジウムは、ギリシャやアイルランドなどヨーロッパの風土で培われたラフカディオ・ハーンの魂が、アメリカ・マルティニーク・日本へと旅したことでのようにオープン・マインドへと発展・熟成していったのか、また多様な異文化の影響を受容しつつ、ハーンの精神はどう進化したのかを切り口としてハーンのオープン・マインドを解釈し、現代社会にハーンがどのように有効なのか、さらにそれを活かした文化創造やその可能性を探ることを目的とし、5か国9人のパネリストが様々な側面から発表した。</p> <p>シンポジウムに先立ち、曾孫の小泉凡氏による基調講演「オープン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン～ギリシャから日本への魂の遍歴～」があり、続いて2日間に渡り9人のパネリストの発表があった。発表のテーマは多様で、「教育者としてのハーン」「流浪と探求の旅人」「ハーンにおける想像のギリシャ」「再話文学の世界性」「トランスナショナル・ハーン」「ハーンと仏教」「エキゾティシズムと文化越境」「ハーンのアメリカ移住と文化的アイデンティティ」「ゴシック・ホラー」などの切り口でオープン・マインドの解釈の試みが行われた。質疑応答も活発に行われ、質問とそれに対するパネリストの回答は、まさに彼のオープン・マインドの本質に迫る内容であり、現代社会において見過ごすことのできない重要なポイントが多く語られた。</p> <p>この結果、ラフカディオ・ハーンは様々な国のアイデンティティを何層にも持つ「世界市民」であり、多様性を認め寛容になっていく精神を具えていた。ハーンのように国を超えた人間というのが次世代の子どもたちや我々の未来における大切なポイントになるのではないかという提案がなされた。そして、今後彼を更に新しい文化論的ツールを使って解釈していくことが可能で、このシンポジウムでは、ハーンの新しい展望(ツール)を発見したのだという気づきを共有した。つまり今後のさらなる多様なアプローチによる研究の可能性が示唆された。</p> <p>シンポジウムの参加者は、研究者のみならず一般市民も多く国籍もさまざまであったが、「ハーンのオープン・マインド」というひとつのテーマのもとに集まってきた人々は、パネリストも多くの聴衆もスタッフも、皆幸福感に満ちた有意義な時間を共有した。</p> <p>また、シンポジウムでは世界が本当に必要としているのは、ハーンのような人だという提案もなされた。民族間・国家間の紛争や宗教原理主義の台頭が憂慮される社会的状況の中で、彼の思想が国境を越えた文化理解と友好につながる事が確認され、本シンポジウムの目的は一定のレベルで達成されたことを実感した。</p> <p>アンケートは実施していないが、パネリストや参加者からは、「大変有意義で、この場を共有できたことに感謝している」「どのようにしてオーガナイズしたのか全く驚きだ」との感想が多く聞かれた。</p>		1,000	国際会議
		【実施地等】ギリシャ			
		【実施期間】2014/7/2～2014/7/6			
http://yakumokai.org/					